

兵高教組

調査情報

2018年7月17日

8号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL : 078-341-6745

FAX : 078-351-3185

URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com>mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

超勤縮減のために

ご協力ください

9月に超過勤務の実態調査をします

いま過労死や長時間過密労働が大きな問題となっています。特に教職員の「ブラック」な働き方が注目されています。そのせいで教員になることを敬遠する学生が増えているとも言われます。しかし、この状況は今に始まった話ではありません。超過勤務の縮減は私たちの積年の要求です。教職員が安心して健康に働けるようにするために、今の長時間労働をほうってはおけません。

よりよい生活、よりよい教育のために

みなさんは、何時に職場を出ていますか？ お昼（お昼ではない職場もありますが）45分間の休憩時間は、ちゃんと休めていますか？ 土・日は休めていますか？

メーデー集会などでうたわれる歌に、「♪働くのは8時間 休むのが8時間 あとは自由な8時間～」というのがあります。8時間休めていますか？ 8時間を自由に過ごせているでしょうか？

私たち教職員が長時間労働で疲弊しては、よりよい教育は望むべくもありません。超過勤務分の労働が必要なものならば、人を増やすなどしてその超勤の解消をするのは行政の責任です。

誰のための「働き方改革」か？

国会では、残業代ゼロで働かせ放題の「高度プロフェッショナル制度」の創設などを含む「働き方改革」一括法案が与党と一部野党の賛成で成立しました。元々、過労死など長時間過密労働の問題を解決するためという理由で動き始めたものが、法案になると正反対で、過労死ラインまで働かせても構わないというお墨付きを使用者側に与えるような内容を含んでいます。

しかし一方で行政は、おもて向きは長時間労働の解消を言い、兵庫県教育委員会も「勤務時間の適正化」を言わざるを得ない状況にあります。今こそ、超勤縮減のためのさらに実効ある施策を進めさせるときです。

労働時間把握が重要

高教組と県教委は2008年度末、本格的に超過勤務縮減を進めるという大綱的合意に至りました。（詳細は2018年度版賃金権利手帳をご覧ください）

この合意の要点のひとつが「超勤縮減の出発点は管理職が超勤実態を把握すること」で、そのために高教組が県教委と交渉を重ね、2009年9月から運用を始めたのが今の従事時間申告表です。超勤実態の把握は本来管理職の責任で、従事時間申告表はあくまで補助的なものであり、提出を強要されるようなものではありません。申告表を提出してもそれを集約して職場の超勤実態を明らかにするわけでもなく、超勤が多い人の業務を減らそうとするわけでもなく、うまく活用されているとは言えません。「超勤縮減の出発点」になり得ていないのが現状です。人事院は「客観的な勤務時間把握」をするように求めています。

9月に実態調査をします

従事時間申告表も全く役に立たないわけではありません。書いていると、自分の働き方が見えます。超勤時間もわかります。

超勤縮減を前へ進めるために、高教組は9月に教職員の超過勤務の実態調査をおこないます。その結果を、秋の賃金権利確定交渉に活用して、県教委に対して実効ある超勤縮減を迫ります。申告表を書いていればほぼ書き写すぐらいで済む様式にする予定です。ご協力をお願いします。

夏季休暇は6月から9月まで

暑い夏がやってきました。夏季休暇5日間は6月1日から9月30日までの間に1日単位あるいは0.5日単位、1時間単位で取得できます。賃金には影響しません。



高教組に加入して、実効ある超勤縮減をさせましょう。